

連載

16 在宅医療奮闘記

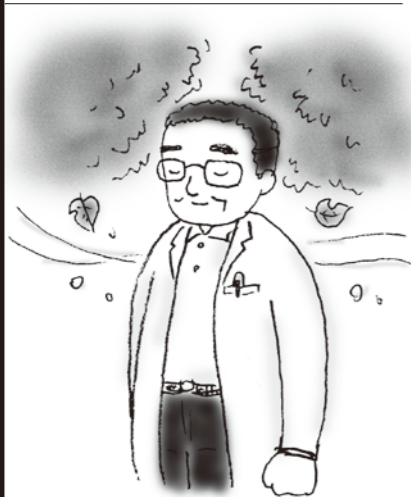
平成7年より
在宅を開始した

私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長

橋本 満義 (62歳・内科)

早起きは三文の得



平成8年ころの話です。そのころはまだ院長である私一人が訪問医師であったため、効率よく訪問診療・往診をしなければなりません。

伊予市のある在宅患者さんは72歳の男性で、脳梗塞後遺症のため寝たきり状態にありました。在宅訪問スタッフと私は午前7時に当院に集合し、その患者さんの往診に出かけていました。患者さんの奥様は早朝から魚市場で仕事をされていたので、診察を済ませ帰る時にはいつも、取れ立ての「いりこ」をたくさんいただきました。帰りの車内でつまんで食べ

た「いりこ」はとてもおいしく、今でも忘れられません。

その後、ご紹介くださった近所のお宅を数軒訪問させていただきました。しかし、まだまだ在宅医療がめずらしかった頃のこと、周囲の住民の方々が急患だと誤解し、心配されて様子を聞きにこられることもしばしばありました。

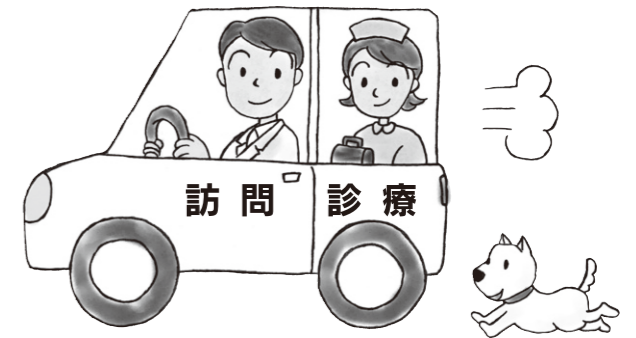
早起きし、「脳」を活動させ体を動かすことは健康の秘訣であるとあらためて悟り、山間や海辺の地区への訪問医療は好んでお引き受けしていました。それまで常連のように通っていたカラオケスナックへ行くのを止め「季節の風」を

感じることでできる機会が多くなったせいでしょうか、持病の気管支喘息発作がなぜだかぴたりと出なくなったのです。

生命体は、自然界に常に影響を受け、免疫力・抵抗力を高めて、生存を可能にしています。さらに心の奥底に潜む好ましからぬ私欲(妬みなどの邪念ほか)をも浄化してくれます。

しかしながら、時には患者さんから「不平・不満」が出ることもあります。『疾風に勁草を知る』『風雪は勁草を育む』のごとく、日々反省し研鑽を積みながら歩むしかないと思っています。

「お医者さんが来てくれる」
質の高い在宅医療・看護・介護
を『千舟町クリニック』は目指しています。



機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

(医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788

<http://www.touzaikai.jp/>